

発掘ニュース

第 20 号

平成 元年 5 月 12 日

発行 財団法人いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (23) 9348

おりかえし いせき 折返 B 遺跡

— いわき市泉町滝尻 —

1989年（平成元年）4月17日より約2ヶ月間の予定で、折返（おりかえし）B遺跡の発掘調査が始まりました。折返B遺跡は以前から平安時代の遺跡として知られていましたが、このたび泉ショッピングセンターが開店するにあたり、いわき市教育委員会が主体となり、（財）いわき市教育文化事業団によって調査が実施されています。先人の文化遺産である遺跡を、写真、図面として後世に残すための発掘調査です。本調査に先立ち実施された試し掘りでは、写真のような平安時代の土坑（ゴミ穴）が発見されました。穴の中からは当時の人々の使用していた土器（土師器、須恵器）や米が出土しました。遺跡は標高約4mの浜堤（当時の海岸沿いの微高地）にあり、現在でも集落の多い場所です。当時も今も住みやすいところは変わらなかったのかもしれないね。



発掘調査とは・・

最近、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が新聞やテレビで大きく取り上げられ、発掘に興味を持たれた方が多いと思います。では、発掘とは一体何なのでしょう。簡単に言えば、土中に埋もれている昔の人々の生活のあとを復元し記録保存することです。そのためには、いくつかの手順と手続きをすませなければなりません。なぜなら、発掘は決して宝探しではなく、一度発掘すれば二度とそれをやりなおすことができないからです。

(昔の人々と握手をするための手順)

①出土した土器や、検出された住まいのあとがどこに位置するのかわかるように、調査の範囲を方形に区画し、目印の杭を打ちます。

②スコップや移植ベラを使って、上から少しづつ土を除去していきます。

③昔の人々が使った土器のかげらがでてきました。すぐに取り上げてはいけません。地点と標高を記録します。

昔の人々が使った住まいのあとや、ゴミ穴がでてきました。(=遺構検出：土の色やかたさの違いでわかります。)形がはっきりし、写真を撮るまで掘り下げてはいけません。

④住まいのあとやゴミ穴を掘り下げ、全体の形や深さ、どのようにして埋まったのかを記録します。

⑤発掘調査終了。折返B遺跡では現在③までの作業を継続中です。



泉町の遺跡

泉町で確認、登録されている遺跡数は、77遺跡にものぼります。時期別にみると、古墳時代以降のものが全体の約7割を占め、特に古墳時代から平安時代にかけての遺跡が多いようです。中でも、朝日、夕日長者遺跡からは、発掘調査の結果、100棟をゆうに越える古墳時代の住居あとが発見され、一大集落が存在していたことが判明しました。また近隣の岸遺跡では、多量の木製品とともに、3頭分もの馬骨が出土し、平安時代から中、近世にかけての生活のあとを復元するのに重要な遺跡として注目され、現在整理作業が行われています。さらに中世においては、現在諏訪神社の境内である滝尻城址がこの一帯の勢力拠点となっていました。古い記録には、東西145m、南北181mの長方形であったと記されています。しかし、泉に人が住みついた歴史は私たちの想像をはるかに越え、人類がまだ土器を知らない頃までさかのぼります。この時期を一般に、先土器時代と呼びますが、大畑の台地は市内で最も先土器時代の遺跡が密集している場所です。ここに私たちの祖先が登場するのは、今から約1万5000年前と考えられています。この大畑の台地で、先人たちは何を考えどのようにくらしていたのでしょうか。泉地区には、先人たちの残した生活のあとが、畑などに数多く散布しています。それらを手に取り、はたまた大畑の台地に腰をおろしながら、そんなことを考えるのも楽しいものです。



整理作業

平安時代の泉町

折返B遺跡は平安時代を中心とする遺跡です。ここでは泉町、渡辺町など釜戸川流域の地区の平安時代の様子を紹介します。

(行政区画)

『和名抄』という平安時代に書かれた本によると、現在のいわき市は、磐城郡、菊多郡に分かれていました。菊多郡は勿来町、植田町、遠野町の範囲、磐城郡は泉町、渡辺町より北で双葉郡檜葉町付近までと考えられます。折返B遺跡の所在する釜戸川流域の泉町や渡辺町は陸奥国磐城郡の南のはじにあたります。

(中世では菊多荘に包括される)。

(生活)

この頃の遺跡としては、泉町下川の朝日長者遺跡、渡辺町岸遺跡があります。朝日長者遺跡からは、地面を方形に掘り下げ屋根をかけた「竪穴住居」と呼ばれる家の跡が発見されています。平安京(京都市)で貴族が華やかな王朝文化^{わか}を謳歌していた頃の東北地方の農民の住居です。

釜戸川中流域の岸遺跡からはおびただしい数の平安時代の遺物が出土しました。生活什器である土器をはじめとして、土製の馬、貝類、果核などがあり、^{ジュウキ}当時の人々の暮らしがうかがえます。また、「泉」「岡本」などの字を土器に墨で書いているものもあります。

参考文献『いわき市史第一巻 原始、古代、中世』1986年いわき市

『ふるさとの考古資料Ⅱ』1984年(財)いわき市教育文化事業団

『平城京』1984年 田中 琢 岩波書店

作業員募集あなたも古代のロマンに触れてみませんか!!

現在、(財)いわき市教育文化事業団では、文化財調査作業員を募集しています。短期、長期、どちらでもけっこうです。四倉、平、内郷、湯本、泉地区へ通勤可能な方。交通費支給。労災保険有。詳しくは、

事業団事務局 23-9348(代)まで